

紙子指昔木燭

一

~ 13
3106
1



13
3106
115

午改

文化 癸酉 孟陬 叢
國字小說

續手摺昔
木偶 七本

山青堂上梓

柳亭種彥
編次
柳川重信
畫圖



子冬 丑冬 寅 卯 辰 巳 午 申 戌

織錦不來段不如一匹布
有

用也 柳亭子嘗與余善矣為人
不崇儒不信佛 居常讀釋史
亦自著作 致而不休 為其編
乃其著作中之一耳 閱之其事
雖釋其義即孝悌廉恥其理
全因果應報可以厲惰可以破



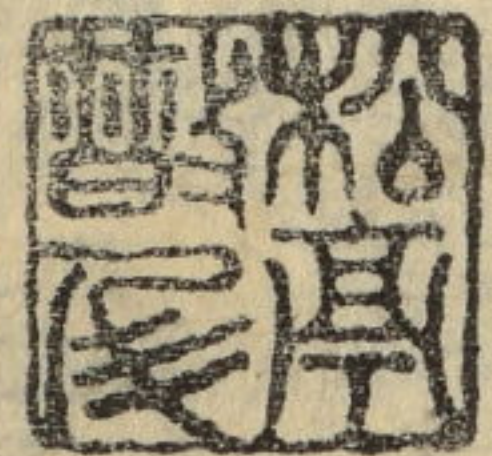
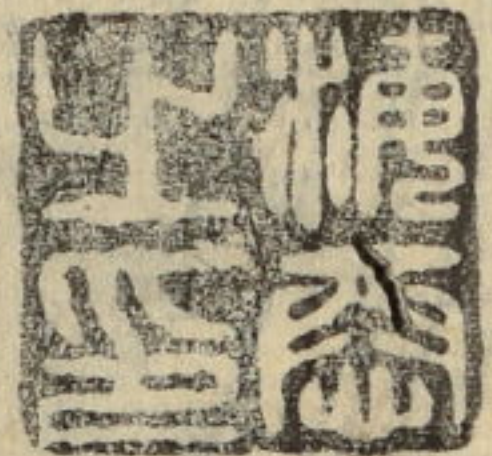
饗庭文庫

暗鳴乎腐儒在僧一以陷溺於所學
一以滌著於所祖遂各益乎教化
更不管乎解脫斃所以夔孰共
于此編之適中事情砭刺人俗
之膝矣然則柳亭子之不崇儒不
信佛實有以也豈徒不信不崇是
執乎此必其玄謂寸錦之眩耀眼
不及匹布之溫覆肌也誠其然乎

誠其然乎

文化登酉孟春松亭陳人題

昭和九年
七月三日
購求



標齋主人元春書



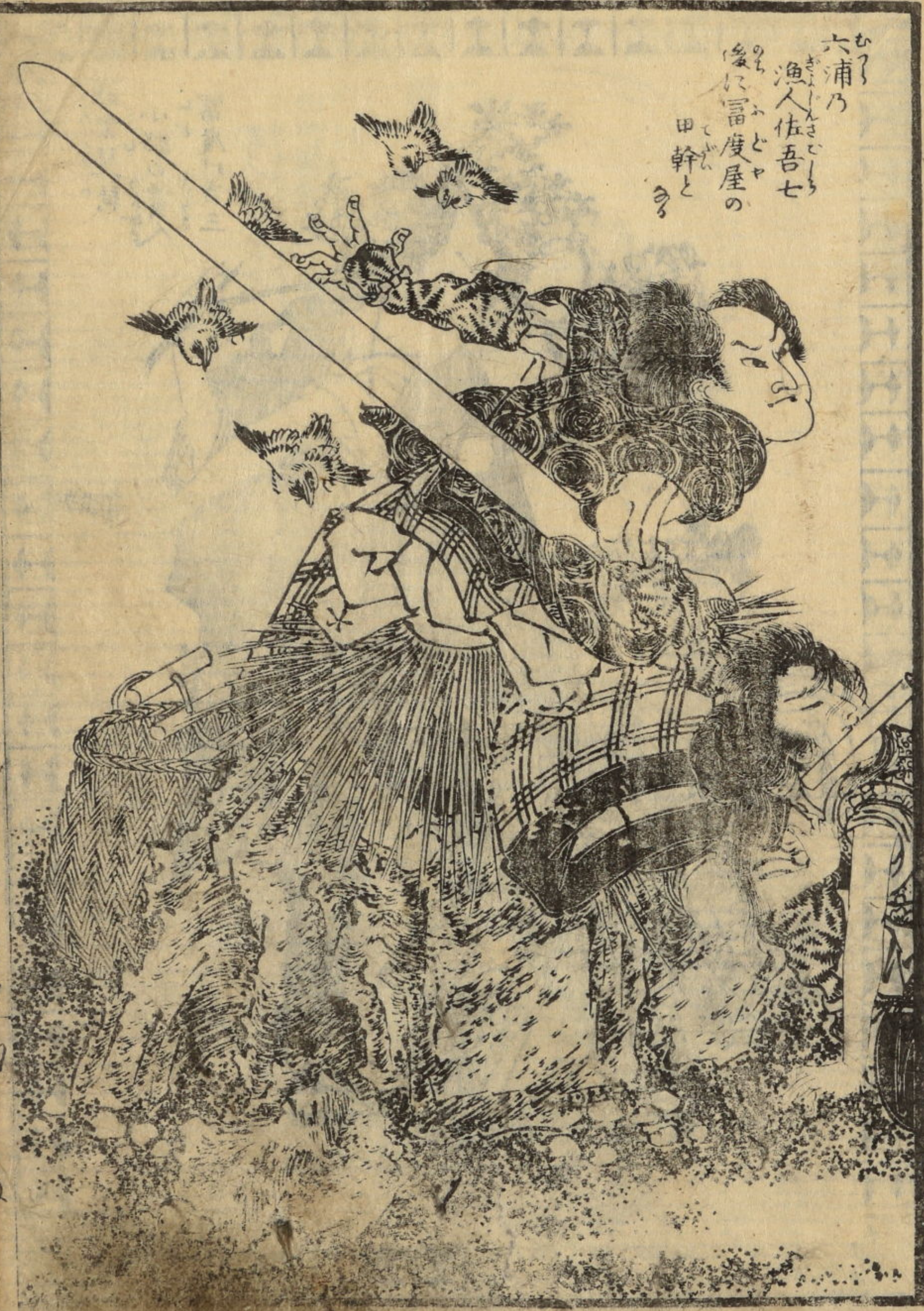


薰再度大磯浅茅が
 長比阿曾比とまり
 名と於香とよが
 人渠に漂各一々
 狂花の於香とよ
 うらやうら
 枕乃床も
 涙川
 右投命れ一曲ハ妓女濃紫乃作り
 誰油の海とよ書にええり



相州鎌倉假難返の妓女
 装屋乃薰

香



六浦乃
漁人佐吾七
後に富度屋の
田幹と



守治橋の
古廟橋姫神靈

鎌倉
塔の
非人水苔



看拂石柳葉
添如石榴花

佐吾七妹
菅浦



富度屋乃
甲幹
段八

渡邊競か室
六浦
救人と柱
鎧を着し良人乃血戦と
宇治平等院に尤
于時治義四年かり



岩經
二舟



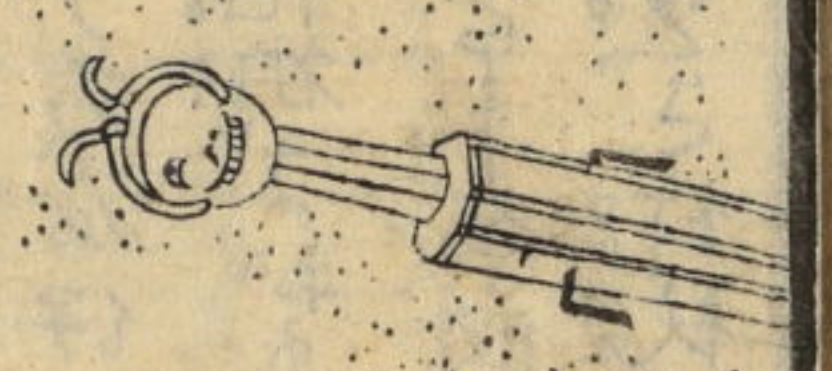
出羽乃圃月山
 琴調谷の地仙
 赤魚



葛野磯六か女
 小櫻



世まづにゆきしりききはさんちやがへりのやど
 吉子んは只御直んくわりのたのがあふふ
 旦那は我があひのこはくんやうめをねしと
 之れは編美はしりかきしとまろろた
 けけしははくふざがらんまをむんぬ
 うんしああはれとんちんむひまをく
 兼ゆんどうかきんせむよきいんてん
 きんしとく忠にち才がぬん
 石の雲の標と標題く小舟とあつひも書
 のせとんやびとく瑞あまのちあつせん
 ねのびと「唐人あ」のねとんてん



富原の吉三は何なる者とのりてと知んごとく右のついでる元祿の
 印本松の糸乃曲子小その名れを中ののとり手が友人のあつる乃
 傳りてくは曲子と歌ひく三弦とひく本調子少て古雅加
 愛まて平平安堂が院本と好の癖あは渠がを返こと
 趣と奪い遂は一帳の小説とをとのし文又実度りのわ

○緞手摺といへ人形と弄人乃安と見えん料小緞乃衣少く子摺と張りひのり
 貴人形と足と着む裾より子をさくさみ眼れうは指のせと弄人形
 らる秘を今のせづひのどく姿と見えんと雅一緞手摺木偶の函正徳の
 印本前義経記小あり又かた頃錦文流が作棠大門扇表小虎石のよるり小緞の
 扱といふと仕知一人形つひやうとを素語といふと初よりあやはし
 居よ舞臺と流くるとは時と初めととわしと専はころ流ゆと
 は虎が石へ則平安堂の作りり予が著述も平安堂が作意ふれは

○人形のてまり真小書へ欄切らんゆとるといふ語の本小よりとく手摺とら
出さし此に摺ハトリヒシク乃意ありありの摺の誤ともし又摺の誤ともし
志むく俗にけいひの指と出さるる婦女子乃と申とくらんがよと先なり
中昔の目せとささの各とりと目次とくはりの曲子小編並と挿と
歌ふ因わとてなりむづらふどねとらふ富士山の形とく
他とるるらんふどらるる西鶴が男色大濫小富士からとらふ大編並とぬ
は家のゆ細少く類くふとらとわとては美少幸のりふとらものなりと
小女郎ゆともおと出さるる「小女郎ゆの編並」向びくふくふとらとわら
今般登伊九馬が狂言小用るはさうらん焼印編並の泥丁の茶屋をんとふて
花街におもむく客一夜づ借編並なり其名松の葉小又「さうらひ」はとわら
わらと西鶴の胸羊用小果雀の細乃とら野辺に編並とせと案山子と持
ちさ竹杖とつらせとく「さうらひ」の鳥も不焼下の大編並とらんつとてとら

供へた大んとらひむると云安末も小茶屋の家号とて焼印とく貸
とらるるうらん野夫編並の元禄の印本今様曾小わり形未考玉端のわ人
白皮少く縁とらとらるる古さ編並と花も者わらとらとらとらとらとら
と初初富士鷹富士二文字乃類はらとらとらとらとらとらとらとらとら
ふて編並の近松ら浄福清本と十彦監捨く町人の恋の相場小ゆとらとら
く昨日の山首尾の日より又る武士もとらとらとらとらとらとらとらとら
道成寺の小次ハハ文とて敷てとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
く目せとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

文化九年月夕

柳亭種彦誌

目次

都富士 一文字

玉端 臘富士

小女郎手 野夫編笠

富士下風 伏編笠

焼印編笠 大編笠

畢

緜手摺昔木偶卷之一

江戸 柳亭種彦作

一 發端とやふふトの上

そとく 出羽の國飽海郡にニレ高山あり。所謂月山湯殿山羽黒山也。
 就中月山高嶺天に横より。遙絶頂の日月乃上にあると疑ひも。故に
 月山といふも。視わが此の百尺の青嶂雲樹天と障。凡からせむ
 千仞の碧崖水波石を激も。嚮に橋木とて路傍に積り踏ゆ。
 野口海道阪にのり。もと上へ進夫と通ふとまじり。
 奇柏怪松枝よま入跡。級鳥語幽に烟霧濛朧とく。常に微雨小満
 かど。こよと小月山姥月光とよ。又雨告山牛が首。麓山多んぞよ。
 雨告山の麓より。望むるに白雲山と隠るとま。夕時よと。

しく雨降とつ牛が首その形乃似つる故乃谷多り。麓六杖と地上にふる
にカヤのしりひもつると。麓にのめとささもどじとより平法多行者庚りと
もぎく。頂上つる。行程八園東道九十里とつと。その実を計あるべし。
九、補陀落しとく。もじくく。れび十三弦とつ。又間、難所あり。
おれとよろの神仙乃栖家はく。甘露露々と鼻に似くく。亦朱あ
わり。その父母一奔く。日は映るれ木石赭然として朱雪の積るがどし。
羣仙龍に駕し鶴に乘遊戯の姿と佳衣眼乃わらりつる者あり。今も
時として金石線竹乃声とまくとあるにより。琴列谷とつひつると。
つづ十三弦とつびくく。爰に嘉應美安の頃、これ怪支わらふ乃
嶽乃葦根小路香箱町多るとまきまへ。一、家居とらけき。鄙に似乳かく。
熟用巷多る。使文人あづまりて後怪しき歌とつひつ。躍るるふく

大路とりののわり。初に程のゆと流るるに。夜毎かくれどく此に里人あ怪
にせひ。板房透り。覗もる。或は手棒よ。子屋と生。或は珠教に眼は使
了。又鼓ののちをさるるに。扇と隠るら。かづとさるるに。とわりく。
悉人に似くく人に非。を習ふ。と安正や。後には歌ひはれ。總て
数乃乃年とつ。雑器の付。喪神とく。変化とらるる。とつ。眼乃
わらり。とつ。の。最。あ。つ。と。多。る。と。に。か。ひ。曉。れ。頂。か。ひ。怪。物。の。あ。と。に。
は。ひ。ゆ。に。月。山。あ。る。琴。引。各。の。う。ち。は。隠。れ。ぬ。け。交。日。と。経。ど。止。ま。し。屋。人。
さ。ま。ま。に。高。塚。と。く。彼。琴。引。各。の。佳。者。り。神。仙。の。住。家。多。る。は。し。ひ。
傳。の。幽。各。れ。う。ち。は。巨。萬。の。室。か。ど。わ。り。く。其。事。も。な。き。と。あ。ら。う。
か。う。ん。と。計。が。て。さ。う。の。ま。れ。吉。兆。と。疑。ひ。か。く。と。忽。地。利。欲。に。眼。を。こ。
衆。人。と。あ。わ。つ。め。截。崖。と。掘。岩。の。石。門。と。か。が。し。き。拍。あ。り。門。扉。傾。ま。う。間。

より燈火光々を閃まづるに、里人の案に違ひ、少時躊躇するが、かゝるを
つら果べきと心を勵し、鉄鎚よりつく打碎にわづ、怪しむ。は、祝廣々
とる石室より、中央に石を疊ぐ床をかき、錦乃褥堆く、年々三
に足ぬ女、顔容髪のかり。いと致するが、玉牡丹の金并と、足踏も
よ。濃紅の袴、踏随乃、白綾の衣と穿。よ、虎額乃、表とまゝとひ
より。側は牛と、飼へま、器に油と漂く燈火と、挑、廂車より、羨々しく
粧ひ、より車、幾、百年、経、久、翠、簾、と、あ、ざ、れ、時、給、と、脱、朽、と、る、と
ひさか、も、較、し、肱、と、つ、ま、お、け、と、く、眠、の、る、わ、り、と、る、と、正、し、書、中、に、軌、蝸、蝶、
昔、いつ、つ、も、花、も、や、侍、ひ、く、ん、更、よ、色、香、の、衰、せ、と、る、も、怪、し、彼、女、漸、く、眠、
と、め、莞、尔、と、く、
より、の、と、瑠、璃、王、の、母、阿、房、乃、皇、后、に、仕、女、官、と、り、跡、勤、乃、出、世、と、い、く、

と、教、願、し、大、宝、元、年、は、石、室、に、籠、り、原、来、日、影、乃、漏、こ、れ、暗、々、と、く、経、
文、読、誦、の、便、か、し、さ、も、ゆ、に、油、と、つ、ま、お、け、と、く、の、器、に、菖、松、明、に、換、と、
と、今、既、よ、衰、え、ん、と、も、と、
閑、々、と、り、と、つ、に、郷、人、の、や、く、奇、異、の、世、ひ、と、か、し、仔、細、に、視、る、不、実、と、
彼、女、が、よ、違、い、油、と、た、め、と、お、け、と、器、と、教、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
か、く、消、繳、の、机、帳、と、し、甲、乃、朽、と、る、琵琶、弦、の、ま、れ、と、る、冬、と、る、日、刻、に、
樂、器、と、し、と、り、扱、々、時、と、く、絲、竹、の、調、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
仙、の、と、と、と、等、閑、と、
彼、異、よ、兼、心、や、と、め、れ、ば、女、人、に、飲、び、妾、と、り、二、日、と、限、し、要、人、と、相、し、
は、惠、に、登、り、と、或、は、過、去、乃、因、果、と、示、し、又、は、未、来、に、禍、福、と、告、る、に、豪、俊、と、
違、と、御、言、れ、に、應、む、る、と、い、ま、お、け、と、く、郷、人、乃、る、教、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

年ひまうを来つ。常女人禁制乃靈場之れど。彼女仙赤魚之れと云免し。く
より集りのそれ殺と知らむ。かぐく限り日と既に香向。なる頃年々二八
をかりと云之。美麗なる女女童一人偃。道乃りての嶮。きねや勞れけん。
鬪るあやと来て。徐に女仙乃前。いさく。懐より珠乃時繪あふ。香はひや
とりついで。香と柱乃と浮懸。懃と拜とをま。女仙赤魚熟とく。かか乃国舎
人よ似気む。貴人乃相わり。傷い哉。短令に。く。然義乃とあり。戦死乃
べしと云。彼女近くわら。妻の小楼とま。りして。当宗。養子向所。に浪人乃
女少る。着く武家に給奉と云。願わし。義に。く。死せん。女か。く
と本意なり。と各女仙黙然。かか乃小女子一人あり。ゆ。末々富栄と疑ふ
べしと云。此れど飲びわり。悲しとあり。花の雨。落速く。に比べ。とつひつ。彼と力と記
小楼が膝元。にさ。か。く。く。香。信。と。取。わ。む。脂。と。り。く。鼻。に。後。に。四。乃

蜘蛛乃時繪あり。かか乃女子れ禍福と云。く。此珠のどく。く。ん。く。礼。瞻
く。女子と諾と云。き。人。に。語。れ。自。来。か。ひ。当。る。と。わ。る。べ。し。と。云。く。と。物。や
わ。む。く。く。さ。う。招。け。べ。不。思。義。や。城。の。信。に。と。離。れ。空。中。に。と。び。わ。ら。り。時。わ。り
て。元。の。時。繪。と。り。ぬ。小。楼。つ。ま。り。誓。讀。か。り。又。つ。ひ。々。ら。ぬ。嚮。に。と。や。う。する
と。く。妻。へ。ち。ろ。き。に。都。に。赴。き。給。奉。と。云。と。願。わ。れ。ど。因。て。嫁。べ。ま。の。は。か
殊に短令。この。さ。ら。ん。と。れ。が。女子と。の。く。く。き。謂。か。り。願。く。の。群。ふ。告。め。ん
と。云。べ。赤。魚。へ。ら。ら。笑。ひ。く。再。答。と。云。と。く。の。き。を。万。一。日。と。暮。る。と。は。い。お。ま。さ
小。楼。へ。残。り。か。を。げ。に。坐。と。と。ち。石。室。と。づ。ぐ。ると。奪。く。打。碎。ま。り。石。門
り。この。ど。く。鎖。け。を。ば。御。人。の。か。ひ。く。と。の。ま。さ。と。する。衆。僧。に。誑。經。せ。ま。せ
ほ。と。云。か。り。ひ。既に。石。室。と。埋。り。奇。怪。乃。と。云。わ。ら。む。と。や。の。か。て。お。ま。さ。こ
乃。年。う。つ。り。治。承。四。年。よ。ろ。ぬ。其。頃。二。院。才。二。の。白。子。茂。仁。王。と。ま。う。り。と。云。ら

平家物語
盛衰記
源氏物語
平家物語

先帝高倉院の御兄あり。御母は春宮大夫公實の息男。納言季成乃
御女なり。三条高倉より侍せり。高倉宮と申す。御才覚と云ふは
ましく、これ故建春門院の御姞故にや。親王乃宜貴と云ふ。只藤中
鬱と云ふは、わかひくは、近傍川原に在り。源三位入道頼政ある夜、満
此宮乃御所にもつゝ、くや、君のまじりて、天照太神の御苗裔と云
けり。せぬ。等雨の御とせぬ。言甲斐多し。爾せ平家の榮花乃
餘は、積悪日々に増過せり。当時討束と施さざらん。期をば、
諸國乃源氏に令旨を下し。名々集あんと。頼は御謀叛と云ふ。御
久の宮と云ふは、覚しけん。御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、
が在京と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、
の令旨あり。旅せぬ。御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、

一族安き心かく。所詮東國乃勢地登りぬ。前宮は佐佐木龍遷
奉るべし。高峯一決の御と云ふは、頼政風に侍る。長谷部信連と云ふは、
多し。武士に令旨。薄衣の市女と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、
宗信に。御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、
持せ。青信の女と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、
五六日。御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、
三井寺の御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、
眩耳目と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、
窓に虫と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、
養田が膳と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、
てと云ふは、御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、御と云ふは、

平家物語

五

幸とよめ頃洛中穩まらざるより、夙にまをり、扱に宮内侍謀叛にてあり
くも。妾あつたふゆがまこととすわり。かゝる所企わらん程多ふ先かきて
君とまねこのふべきに、其をさそを。又君とかくと知り、つぐら。僅く
敵將乃豹と奪ふと。躊躇あるひ、いれ公臆し、るに似たり。乞二詳
にわすせぬ人と、同ね競黙に。あす我館に宗盛が局所と築地と隔に
のこれば、兵士とりて告誠とさしに。いよく敵にゆれば、遠く思慮と巡ら
され。まろく捨せぬを、と。足踏より多るふ、我胸中と察して。家内里九
所所に在り、と。おのむに、おびく宮内侍供小俱せし、るは、て我異か、まに、
し。又計束と施、敵乃豹と棄ひ、生年頼政公に嫡男、仲綱公の秘判あり
麻毛乃豹、宗盛を、新、手、く。容、仲綱と焼印と、ま、仲綱、も、と、畜
生の名よりひ、ると、仲綱公、ま、源氏の諸武士、ま、は、ま、と、よ、か、ひ、ひ

か、れ、べ、う、い、ひ、と、つ、る、は、る、ふ、宗、盛、と、焼、印、敵、陳、追、ひ、恥、と、雪、べ、と
か、ひ、て、り、ま、れ、我、と、悪、く、と、深、く、か、ん、力、等、ま、で、何、多、る、憂、ふ、あ、り、ん、と
ま、ろ、か、と、其、方、れ、又、夢、幻、入、道、が、隱、家、深、草、の、里、に、千、多、と、連、て、落、し、色、
合、戦、乃、場、の、宇、治、橋、の、わ、と、り、と、か、れ、し、れ、彼、所、の、ま、ろ、く、遠、か、り、軍、發、る
其、時、の、所、等、里、九、の、ひ、つ、も、か、ん、力、が、許、へ、告、あ、る、さ、ん、が、け、さ、び、の、所、謀、叛、を、
只、諸、國、に、散、ら、る、源、氏、乃、武、士、の、公、と、ひ、ま、こ、と、く、勵、と、つ、ま、ん、計、束、は、て、美、に、
と、勝、利、乃、程、へ、か、む、つ、つ、と、ま、お、か、ま、ん、か、れ、六、浦、ハ、つ、と、悲、し、く、と、ひ、こ
も、止、めん、公、み、れ、ど、日、頃、帝、カ、一、ま、夫、の、親、質、か、こ、ま、ま、人、言、懲、し、甲、斐、か、こ、
者、と、や、笑、れ、ん、と、落、る、涙、と、押、か、く、首、途、と、後、の、履、半、昆、布、銚、子、土、器、持、て、
が、れ、ど、く、と、か、さ、さ、り、と、三、献、飲、ぶ、六、浦、よ、さ、う、鎧、一、領、ど、り、マ、三、毛、我、言、
と、ま、く、か、く、見、に、せ、り、と、ま、け、は、持、と、ま、る、顔、色、と、か、り、は、し、と、側、に、あり

娘千名六衛のり。乳母にござれ假寐せり。サウくめ心とるれば心覚。理を
人必不盡とてまより。由は陳のやうと語りてうんと。ついに競呵々ことわらひ
わらうと。今危きと。戦場のまに假ぶぐも。國とてこれ敵あり。ついに終
と白真弓。弓取家れかひぞや。又さかまごうは泡沫元常坐をもももも
一日と安き心のまよめ。賀茂の祭ア。練ゾぐるも。討死乃首途とあわら
たかろは。嚮れやほいままつれ。若天運にかまひ。宮や清代にござるまうさる。
めでと親子再會せんと。物具ぞろくろくわくれば六浦のさううひかねて。奥刀
つづれや鉄味のとろろま。由冒へ何かるもや。やせぬふと。前にさう後にひ。
武者ぞと繕ふと。今日とがさうと。涙に服とられ。手とて。多結
かゝる。胡塵乃。硯のまをれ。流るる。ね。縁小く。切生乃。矢と肩か。を。せ。ろ。り。て
と。ち。つ。が。れ。バ。鎧。の。金。具。写。音。よ。千。名。と。眠。ア。や。覚。に。久。走。ア。来。ア。と。と。と。

つゝ又上行地。ワラうと。やめ。と。向。顔。と。競。の。熟。う。ら。ま。り。初。き。才。は。き。ま。あ。る。と
之益々。れど。相公。頼政。公。術。謀。叛。と。つ。り。め。の。と。宮。よ。ま。め。ま。つ。せ。め。ひ。は。我。々
を。より。三。井。寺。小。針。ま。討。死。と。の。ま。か。ら。に。長。然。す。り。よ。生。長。し。く。母。は。孝。行。を。ま
べ。と。と。バ。千。名。の。微。笑。討。死。と。中。く。あ。り。ひ。て。飯。ア。来。ま。う。と。その。時。は。く。と。土。着。給
れ。と。語。の。文。ア。入。と。と。す。へ。む。六。浦。と。今。の。忍。か。ひ。と。や。り。落。る。涙。と。つ。み。一。切
の。も。と。つ。く。草。摺。に。と。り。も。が。れ。バ。競。ひ。つ。り。あ。ら。く。之。益。の。歎。に。時。う。り。ア。
敵。小。か。く。と。中。へ。ぶ。軍。兵。襲。ま。さ。う。ん。の。心。定。み。り。と。く。け。家。と。立。退。べ。と。
留。る。心。と。ま。と。ら。は。く。排。ひ。願。も。せ。む。出。ぬ。と。あ。ら。れ。墓。か。ま。お。治。に。を。り。も
深草。九。里。と。ま。ん。つ。る。皇。城。と。去。と。ま。ま。く。遠。く。ね。ど。静。さ。の。尚。差。我。野。に。と
と。ら。勝。り。茲。に。さ。う。ち。る。庵。わ。ら。う。門。設。れ。と。常。は。鎖。へ。進。近。は。訪。る。人。か。は。れ。れ

二一

教端とやまふトの下

神告カミツケひんひんそそまま父ちち元垢もとあか清淨じやうじやうの境さかいににりりびびままひひそれ夫それの神かみ通とほりりと
具ぐ皇み軍ぐんに勝かちしめあられと巻ませとめくする經丈きやうぢやうの紐ひもと又またや得解腕とくげうでん
衆しゆ商人しやうじん俱ぐ發聲はつしやう多たと發はつしと西陣さいじんの矢號やごうの井いととさほく天地てんちに夷い
く攻鼓こうこひににどどもどどくくままゆるゆるほほどどとと今いまこそこそ乳ちちを逆さかのさかりり我われふふと
わわくく心こころ経丈きやうぢやうとと持もちりり候こうくくととららわわががれれがが礮ひょうと音ねしてして瓜うり探たん念ねん珠しゆ油あぶらよりより落おちる
ににゆゆぐぐとと和わりりとと乃すなはちち坐まいいかかどどりり妻つまががつつふふかかとと甲斐かいかかままとといい知しりりかから
わわままつつららめめぐぐまま女めづの思おも癡ちををれれはは經きやう丈ぢやうとと若わか多た愚ぐ癡ち便べん得とく離り癡ちととくく度たら
ままももかかせせどどとと服ふくららくくとと甘かん露ろ乃すなはちち法はう雨うししままりりてて涙なみだの雨あめ潜せん然ぜんとと煩わづ悩なのの發
滅除めつじゆややくくどどととししくくととねねんんににれれ約やくしし太た徳とく跡あとくくととくく庭にわににけけくくとと良よ人にん
修羅しゆらの途みちににありありととそれと知しららつつ安閑あんかんとと經丈きやうぢやう荒あ補ほにに期きととののををささぶぶ武ぶ士しととも
妻つまはは本ほん意いにに叛はん人にん妻つまとと直ちかにに戦せん場ばうにに馳せ系けいととよりより歌うたととくくちちりりぐぐ人にん未み来らいとと

岸はうららぎ一時に合する鯨波浪ふとてゆくかびしに。かて味方の陣中
 より筒井の淨妙明春の名のりつ。只一筋乃橋杵と危はどど打渡り。平家軍
 兵まはさされと扇とあもさすさうまねけとさうあうんせんかうとさう
 彼と射とれと敵陣に矢種とやまも射とれどもあれどもあつとせむ。
 縁つて矢さきと切拂入一末法師おれよととも。二入つてあは敵兵討つと
 数と知らざりしと橋へしとらあはるは。敵と飽倦ととつるとあらに田原の又所
 忠綱宇治川の先陣ありと名の。我れもよしと三百余騎むれなる多れ羽音も
 かやと。白浪よさうととちやれさうの。軍盛にく勝負又はらうとさうら。わ
 陣中に立度でまとの為体と仔細よととけ。又も注進ととと。原れ路をもせ
 さるぬ六浦のよと仰天か。敵兵川と渡るか。宮方の清大夏あるまに。ひひ
 延き悔とと冷あうん。度乃最期は少時ありと。今もく言まことありと。

娘千名が朝寐あてん。よめひま。ゆめ女ととびびど。若夫婦とと討死とや。
 かくと千名と誘引丹波の四矢代とと地は。下。彼方の主君頼政公。嗚呼。
 に似たりと。ひ。変化と射。恩賞に。まうり。ととと。ゆ。其名。庄ふ
 矢代と名も。因。観の者。とと。とや。と。よ。め。に。便。其。地。を。強。と。と。く。
 よひ押。又。入。の。侍。女。に。合。下。の。競。が。う。へ。く。澄。一。願。を。り。の。ご。させ。唐。櫃。の上。に。
 かど。鶴。尾。板。梅。檀。板。と。か。も。臂。罩。肩。罩。と。は。も。を。か。べ。と。早。若。乃。用。意。調。
 へ。は。り。侍。女。に。涙。に。れ。れ。か。て。の。初。ま。の。の。の。う。や。の。せ。の。の。き。と。因。り。と。や。れ。ど。
 と。か。奥。乃。同。は。退。く。め。歩。直。意。と。つ。く。流。石。を。る。れ。さ。か。ひ。ぐ。く。臨。岸。
 くる。其。乃。門。の。板。戸。と。わ。ら。う。ふ。押。ひ。き。收。入。へ。を。せ。け。ら。の。お。あ。く。や。
 夜。に。わ。ら。う。ら。門。乃。戸。搦。的。と。と。ま。れ。を。残。の。收。入。ひ。を。を。か。ま。あ。ひ。さ。う。か。う。の。
 打。と。う。き。六。浦。の。水。も。枕。誤。あり。右。左。は。眼。と。く。を。り。先。に。も。に。二。入。の。收。入。

てつせきさうち
鐵尺打つとびかふる。ゆるりと才と内く。き腕とく。投のれが度と
うつく伏特。おどわぐ。ぬ其むら小濃の側にをせり。綿嚙とく。程よく
ひま下のせ。引合や。ひきま。うき。や。臂單にさうとせ。又一人がうき。ひり。
抱んとか。うき。才と反。膝にひり。き動せ。馬をけ。臂單をさうり。うき。
嗚呼感とく。月も妬める。容止はく。男子に勝る。勇力あり。羅縷に。を任
か。ま。安に雪乃耳坐濃。つと。才が。る。は。揺系。紅。細腰。ひき。ひ
る。肌着の透中。媚き。ぬ。牧人の潮に乱入。微塵に。と。打り。うき。襟。うき
掴ぐ。撞的。投つ。も。脊に。足。と。踏。か。も。く。あ。うき。と。縮。も。も。紐。と。か。く。散。ゆ
花。じ。と。び。未。来。の。一。蓮。葉。に。も。び。き。ぬ。佛。胴。縹。紫。の。根。緒。ひ。き。と。衣。を。か。う。け
わ。く。と。と。又。打。か。も。と。左。右。一。度。に。拂。ひ。の。も。も。ひ。と。帯。を。ひ。き。あ。つ。ひ。ひ
ま。うき。と。うき。と。又。ひ。ひ。と。乳。隠。し。乃。環。と。あ。る。に。後。より。紐。つ。と。や。り

れどき長刀。わたり。立ち。入。へ。六。浦。うき。か。ふ。氣。騰。て。敢。て。又。向。り。の。と。あ。く。と。か
ら。ぐ。に。逃。さ。り。多。り。の。か。て。六。浦。平。等。院。に。を。せ。け。に。が。と。や。乱。軍。れ。と。か。れ。を
良。人。の。後。方。主。君。の。あ。り。る。櫻。り。と。らん。に。隠。し。ぬ。く。兎。角。か。と。も。ふ。味。方。乃。軍。兵
い。ら。め。さ。て。も。最。先。に。け。ふ。さ。か。れ。長。刀。うき。うき。敵。陣。に。斬。て。い。り。少。時。が。た。に
敵。十。四。五。騎。うき。うき。の。勢。猛。く。戦。ひ。く。うき。其。才。を。敵。箇。所。に。疾。と。うき。遣
に。立。矢。へ。松。林。野。乃。尾。花。と。と。と。に。勢。勢。うき。六。浦。と。今。うき。に。け。と。や。あ
ひ。かん。透。進。区。と。踏。走。先。て。ぬ。く。庵。に。立ち。の。れ。ひ。千。名。も。目。覚。て。傳。女。に。うき。さ
は。の。周。章。ま。か。ひ。て。うき。で。淡。檜。の。と。あ。り。と。ぬ。と。澄。れ。袖。を。携。うき。さ
悲。と。と。泣。ぬ。浩。の。所。へ。里。九。の。敵。陣。乃。圍。と。ま。り。ぬ。も。再。び。庵。に。を。り。ま。さ。り。
さ。く。の。奶。々。に。也。出。陣。と。か。が。ん。と。うき。と。も。れ。が。詳。よ。か。と。る。に。抑。え。ぬ。と。念
か。が。うき。と。味。方。の。小。勢。故。の。勢。勢。よ。あ。うき。と。うき。と。競。君。と。と。め。と。うき。と。波。辺。省

鉄尺打つとびかふる

鉄尺打つとびかふる

同様早湯かんと。とつらぐに討死し、頼政君に平等院に生言在
とうもあつるかりせば、時を急ぐ立退め、我と主君に供せん
るひびにひまらかも。既、自害とて、六浦里九と押さぬ、妻は
は痛疾づく、所治治のぐらへ、とせ、押さぬも、公よ、かゝる娘千多がれど
り、とく生長させ、死するに、ちとる功長く、冥途より、祇ま、とせ
うれ、とて、又、あつら、妻、又、夢幻、原東園、武士の浪人、菅野、破、六、せ、い、の
者、は、く、其、願、妻、小、楼、と、と、び、一、年、出、羽、園、羽、里、山、乃、藤、子、向、町、に、住、く、と、ま、こ
竹、松、の、と、あり、と、く、月、山、の、十、三、間、より、地、仙、出、現、と、せ、と、せ、し、其、才、の、神、祇
と、告、げ、る、と、香、宮、は、時、給、と、せ、る、四、の、時、と、り、く、因、果、と、と、ま、こ、と、る、と、洋、は
治、り、又、し、ひ、く、ら、妻、其、刻、の、嫁、ま、き、ひ、か、ま、と、り、て、か、乃、女、仙、赤、魚、女、子、あ、り、と
し、ひ、く、と、い、と、不、審、く、押、さ、ぬ、不、圖、と、波、辺、の、館、に、給、奉、り、せ、り、か、り、か、り、ひ

か、ま、こ、と、知、り、か、が、く、不、斗、君、と、押、さ、ぬ、務、め、遂、に、公、乃、於、多、し、妙、し、ま、こ、が、か、ん、と
顔、と、接、添、さ、し、ま、つ、せ、く、小、夜、れ、夜、乃、ま、と、し、ひ、二、重、れ、帯、と、せ、り、か、ら、く、
恋、恋、に、ひ、ま、び、か、く、る、額、帯、と、の、と、ら、び、乃、程、と、せ、く、あ、り、と、ら、く、お、表、帯
に、は、深、草、乃、あ、じ、ま、き、ゆる、今、ま、つ、ら、く、女、仙、の、語、違、と、ら、く、と、し、知、り、ぬ
と、語、ら、く、ら、に、内、御、袋、より、香、宮、乃、葉、と、つ、ぐ、又、日、波、辺、授、ぬ、に、深、草、と、し、
あ、こ、く、五、才、乃、男、子、あ、り、と、ま、き、へ、娘、千、多、と、め、あ、り、と、ま、き、契、納、は、し、香、宮、と
ひ、ま、こ、と、ま、き、片、の、彼、方、か、り、か、ま、ね、然、る、に、は、深、草、乃、授、ぬ、侍、女、に、あ、り、て、
舞、せ、あ、ひ、男、子、は、く、正、室、堅、田、の、妬、つ、く、傳、的、に、あ、つ、も、近、衛、は、せ、あ、ふ
う、其、地、の、妾、と、せ、り、授、ぬ、と、討、死、あ、れ、に、在、所、と、こ、あ、ら、く、知、り、ま、こ
は、い、か、れ、し、び、香、宮、と、證、と、し、く、四、ッ、の、蜘蛛、の、二、づ、び、ま、離、れ、し、と、全、く、合
せ、夫、婦、と、か、く、く、れ、し、う、と、今、二、包、と、り、つ、ぐ、里、丸、に、と、り、し、いと、若、く、も、よ

換、一、二、三、の、巻、一、二、三、の、巻

三つをう。ひやととをがかりとる。ひやととひよりのわを。吐掻切て死
 せけ。侍女とと千多とと。六浦が死骸に。つまき。悲涙を。めがて
 足へ。丸へ。丸と六浦と。理の。に。感激。を。泣。千多とと。さ。ま。ざ。り
 言。履。經。文。と。や。め。る。唐。櫃。の。内。よ。ま。が。せ。波。六。浦。が。ま。り。具。足。の。競。が
 常。に。秘。藏。せ。耳。坐。濃。り。な。る。に。より。千。多。が。生。長。の。後。形。見。と。も。ひ。き。と
 我。若。く。も。濃。と。脱。替。か。く。あ。る。ま。さ。の。後。侍。女。と。と。已。が。隨。意。流
 一。子。六。浦。が。死。骸。と。り。か。と。眼。さ。め。空。垣。け。ま。成。く。打。か。れ。ひ。膚。は
 火。と。か。ま。と。ま。り。さ。れ。ば。う。く。火。惱。天。と。隼。忽。地。灰。燼。と。あ。り。ふ。り。の。屋
 丸。今。の。公。中。と。と。唐。櫃。と。と。う。く。い。と。か。ら。あ。ぐ。と。脊。負。支。度。か。や。さ。る。る。義。立
 け。く。決。ま。と。思。ひ。ま。あ。が。る。わ。く。と。の。れ。何。方。と。と。か。く。矢。一。筋。飛。ま。さ。り。丸。が。射
 向。の。神。の。あ。り。う。ま。の。突。て。寝。く。ら。勢。と。ひ。弱。る。れ。ば。哀。と。が。か。も。威。の。あ。り。

射。り。う。何。者。の。仕。業。と。と。ま。り。て。打。ま。れ。生。成。り。る。夏。草。と。押
 こと。つ。あ。し。た。り。り。の。ま。き。男。子。と。愛。り。く。腰。巻。を。ら。携。り。て。歩。出。そ。う。は
 居。る。の。競。が。師。等。里。丸。と。と。ま。か。く。い。の。嚮。の。一。戦。は。地。方。に。討。り。子。あ。た
 一。子。水。雄。丸。と。の。者。と。り。其。怨。と。報。人。と。汝。が。あ。と。と。暮。ひ。ま。さ。り。け。最。に。あ。ひ
 わ。く。と。の。為。体。に。詳。に。知。り。ぬ。先。深。く。勝負。を。決。せ。の。と。と。わ。下。と。ま。か。言。は。れ
 へ。丸。九。荒。介。と。う。ら。多。と。鳥。子。と。静。謐。多。る。時。り。せ。乳。母。に。抱。れ。は。房
 と。離。れ。ま。き。切。き。男。子。と。り。ち。く。軍。出。立。の。と。も。ひ。き。と。我。と。仇。を。は。な。せ。ら。ふ
 糸。威。と。ら。に。餘。り。あ。り。う。ふ。と。千。多。太。師。と。千。人。へ。今。朝。宇。治。橋。に。刃。に。と
 我。討。り。た。か。の。り。候。か。く。初。ま。地。方。に。討。り。あ。情。り。く。然。る。く。ひ。を。代。の
 り。ん。の。心。を。せ。り。と。と。れ。ば。地。方。の。功。と。卒。に。死。運。と。ま。り。と。く。一。具。乃。怒。と。和
 生。長。と。と。あ。り。我。か。り。擇。ひ。ま。討。う。と。と。ま。れ。天。運。に。女。と。を。



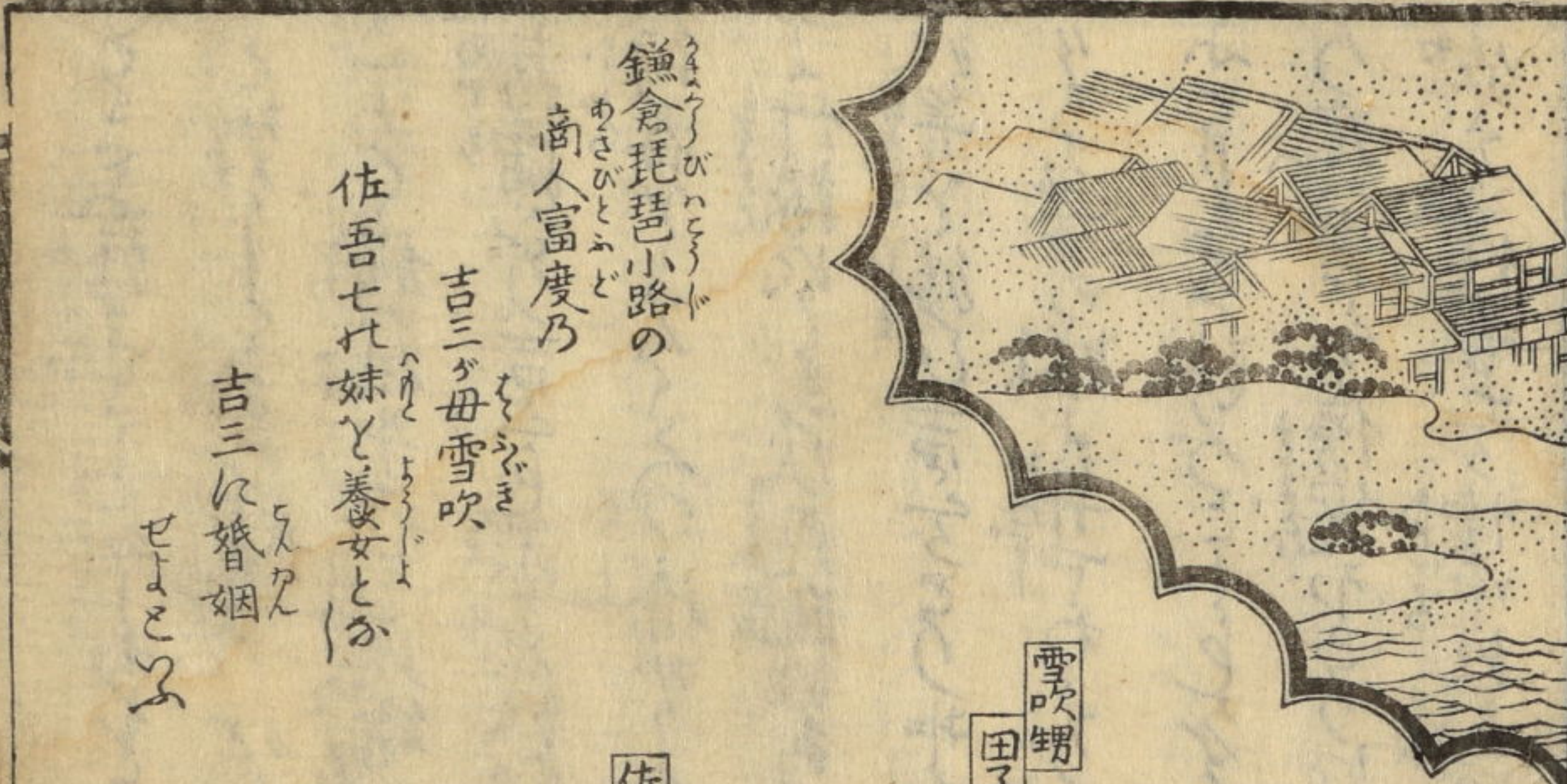
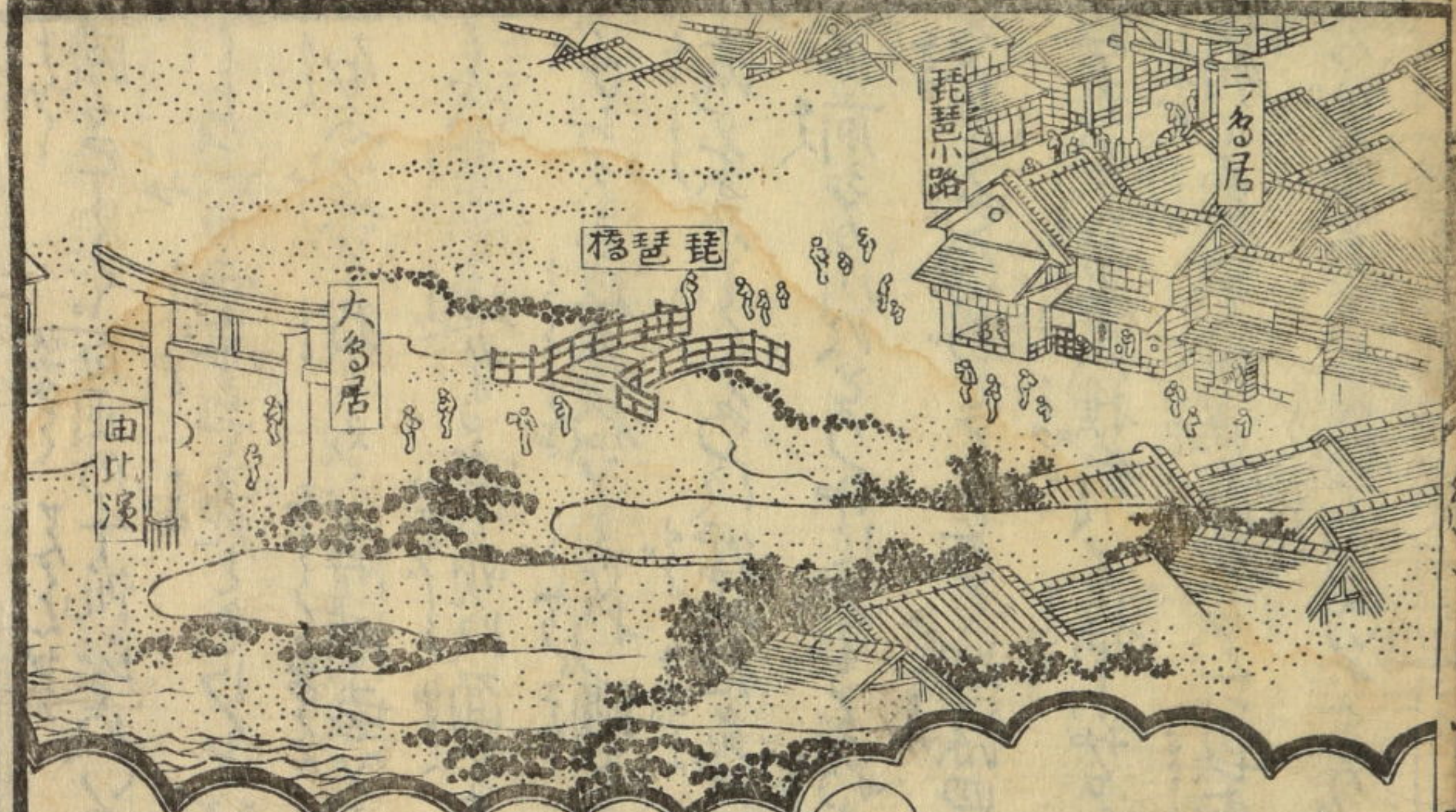
里丸橋姫の
宮に
解
焚
互
東
海
ワ

縦
ひ
き
の
巻
二
七
の
巻
一

涙とどろく。傳つたれ神へ嫉妬に仍く。今とてあひは。さるは。いにて。今と
 人と妬と。とよのび神に願言あせ。成就をもと申す。さひつるも。口惜や。
 往年うづつ。授君葛珠と。つ侍女に。多びあひ。男子まじく。し。か。ひ。と。
 妾は。多びあせ。せ。妬と。あ。公。ま。は。し。と。い。ご。ふ。あ。の。言。う。く。と。れ。彼
 等母子と。悪児。咀か。も。え。ど。流言。あ。ま。る。あ。の。言。と。い。ご。今。何。地。に。在
 と。と。告。め。と。及。入。の。跡。ま。し。安。雨。と。活。が。ぐ。へ。ん。我。ま。が。く。思。ひ。た。片。時。と。急
 く。自。害。して。冥。途。の。夫。う。分。説。せん。と。死。王。と。ま。ま。も。ん。り。ん。と。ち。と。穿。て。死。後。と
 墳。懐。汲。袖。に。や。ま。き。つ。呪。の。う。さ。り。と。搥。切。と。怨。息。絶。死。う。せ。る。時。に。川。渡
 溜。々。と。漲。り。雲。井。遙。に。鳴。こ。と。る。郭。公。と。亡。魂。の。化。を。は。や。わ。へ。と。り。の。寒。き
 寂寞。する。赤。倉。れ。扉。と。右。左。う。や。ひ。も。ま。ま。立。つ。る。女。わ。り。才。女。氷。れ。と。と。と
 凍。夜。と。と。し。振。か。く。る。里。後。と。九。子。造。び。か。く。宛。然。角。地。生。の。く。く。と。

わ。ま。る。る。右。乃。子。に。燈。籠。と。引。提。た。り。出。の。業。は。く。作。じ。入。形。に。数。多。し。汀
 と。と。ち。る。成。ら。ぐ。え。袷。子。に。歩。も。の。堅。田。が。顔。と。と。と。公。約。も。も。は。い。ち。り。

高木。履。は。く。死。骸。と。撲。地。と。汀。に。蹴。及。て。莞。介。と。致。く。く。ら。あ。る。最。も。怪
 し。き。奉。勤。を。里。九。後。に。う。ひ。わ。く。女。が。姿。乃。異。多。の。に。あ。ま。ま。づ。面。と。見
 ん。さ。と。も。し。れ。彼。女。と。叙。わ。く。と。や。あ。ひ。く。ん。袖。う。ち。履。て。立。戻。れ。び。又。燈。を。た。よ
 立。塞。か。し。と。と。し。む。曲。者。あり。それ。打。粉。を。行。と。あ。れ。び。一。頂。の。編。笠。は。く。面。を
 隠。し。腰。に。一。管。の。短。笛。と。と。と。あり。と。れ。年。一。く。諸。國。と。廻。る。梵。論。寺。と。あ。れ。ぬ。
 彼。女。乳。を。焦。燥。突。過。て。往。ん。と。と。里。九。を。公。ひ。く。二。人。が。前。に。走。り。つ。り。女
 の。袖。と。し。ま。欄。に。は。時。月。の。雲。に。隱。善。惡。と。あ。る。間。あ。れ。び。梵。論。寺。と。披。あ。
 甲。壳。に。ゆ。こ。あ。り。の。養。う。り。と。び。草。摺。は。地。盤。と。さ。り。は。は。し。か。今。物。の
 六。浦。が。血。戦。に。揺。糸。や。ま。れ。り。も。ん。も。断。離。そ。乃。却。倉。の。女。打。神。と。あ。れ。



鎌倉琵琶小路の
商人富度乃
吉三が母雪吹
佐吾七れ妹と養女とか
吉三の婚姻

かか
号し方りやある。鬼心と角ふもサ方の素性すまりとの向りは高浦は
妻元由之部の者たるが父也母も三女れきまじあひ一人り兄と方はくは園
いろろは高浦乃海は細多くと細き煙とともぐい宿もともぬぬゆは子
いのそ結色はきと入乃ありへきとつた。吉文回すは似たることあり
ゆめ我も心も雅とまを和邦がのゆめあふは佳幸は明は住居は後し今
の琵琶小路のそ。かろく今とむりれは富度の吉とつと者も御業も
まこあつと。落せ一扇のめこと養ひ不図とけ家にもつた。一盃を耐
かきと宿をよりの契たる。ゆめ殊にせん方が使多きおかあはと多ふ
どらけもつる。ゆめあひれど養我にけ多は兄と母よは疾をくおあ
とべとつる。高浦は深く狭くはくぐりくととを言と。吉は多とつら夏
と清人とか。けりゆると。遠寺の沙家をも御押年ふ書のをそ。かまはし

ゆめあひれど養我にけ多は兄と母よは疾をくおあ
とべとつる。高浦は深く狭くはくぐりくととを言と。吉は多とつら夏
と清人とか。けりゆると。遠寺の沙家をも御押年ふ書のをそ。かまはし
ゆめあひれど養我にけ多は兄と母よは疾をくおあ
とべとつる。高浦は深く狭くはくぐりくととを言と。吉は多とつら夏
と清人とか。けりゆると。遠寺の沙家をも御押年ふ書のをそ。かまはし
ゆめあひれど養我にけ多は兄と母よは疾をくおあ
とべとつる。高浦は深く狭くはくぐりくととを言と。吉は多とつら夏
と清人とか。けりゆると。遠寺の沙家をも御押年ふ書のをそ。かまはし
ゆめあひれど養我にけ多は兄と母よは疾をくおあ
とべとつる。高浦は深く狭くはくぐりくととを言と。吉は多とつら夏
と清人とか。けりゆると。遠寺の沙家をも御押年ふ書のをそ。かまはし

候も坊昔木偶一之巻 後



